

学校施設の長寿命化計画の策定について



2016.2.5
首都大学東京
山本康友

○インフラ長寿命化基本計画(H25.11.29策定)のポイント

- ・個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築
- ・メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化
- ・産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成

○インフラ長寿命化基本計画の体系(公立小中学校の場合)

インフラ長寿命化基本計画 (H25.11.29)

- 策定主体: 国
- 対象施設: 全てのインフラ

公共施設等総合管理計画 《インフラ長寿命化計画(行動計画)》

- 策定主体: 文部科学省及び地方公共団体
- 対象施設: 安全性等を鑑み、策定主体が設定
- 策定期限: 文部科学省及び地方公共団体において平成28年度までに策定

基本計画に基づき策定

行動計画に基づき策定

個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)

- 策定主体: 各教育委員会
- 対象施設: 各地方公共団体の行動計画において設定

すべての学校の長寿命化はできないことは少子化、財政面からも明白。(施設面積の40~60%が学校)限られた予算での判断になる。

点検・診断

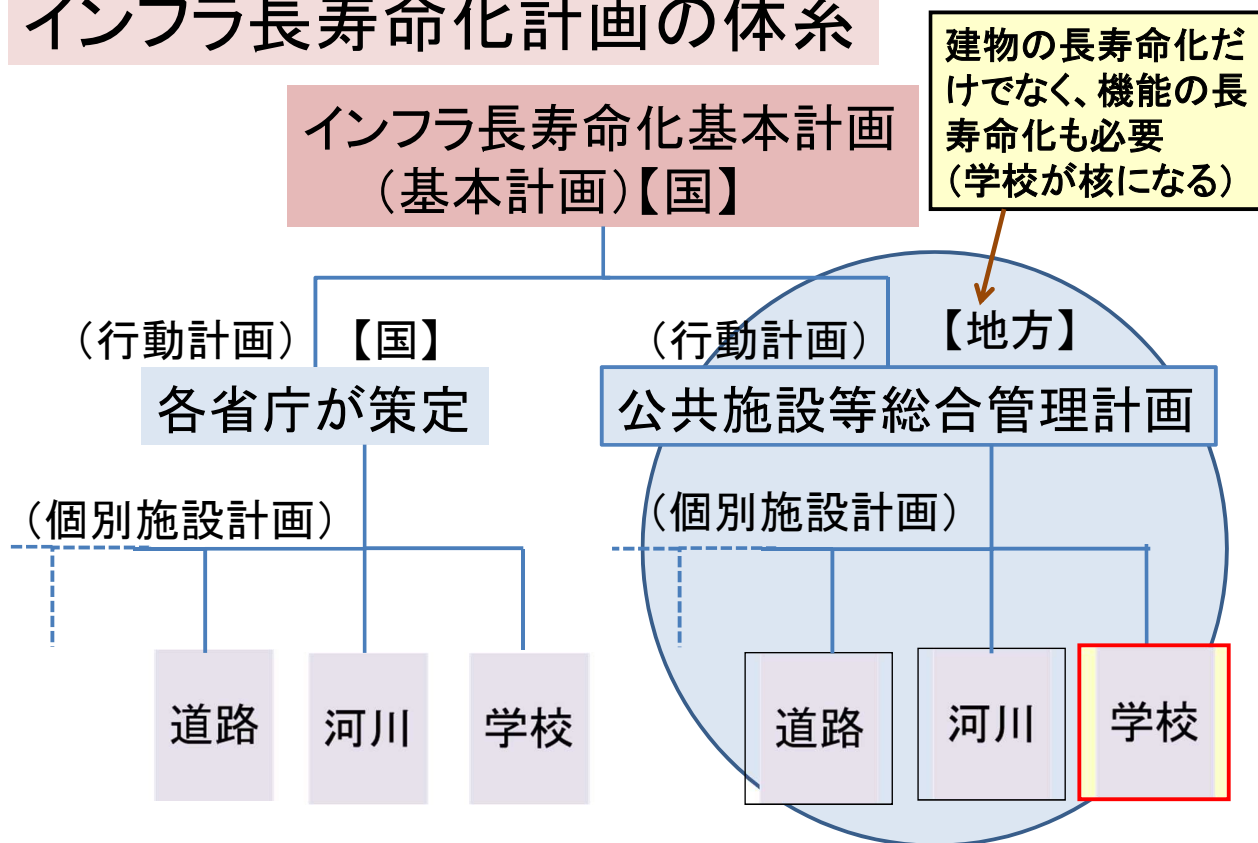
情報基盤の整備と活用

基準類の整備

行動計画において具体化した取組を推進

修繕・更新

インフラ長寿命化計画の体系



3

平成26年4月22日 総務大臣通知

公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について

公共施設等の老朽化対策が大きな課題

人口減少等により公共施設等の利用状況の変化が予想される

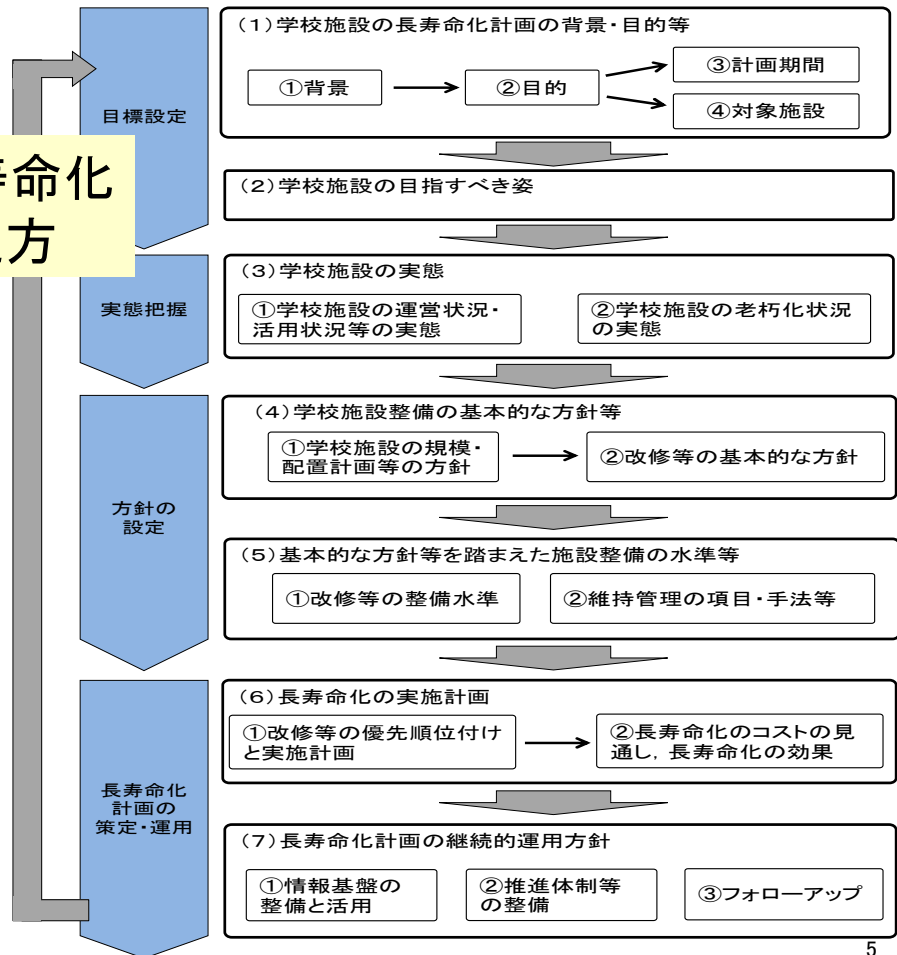
1. 早急に公共施設等の全体把握(学校が大きな要素となる)
2. 長期的な視点からの、更新・統廃合・長寿命化などの計画策定
3. 財政負担の軽減・平準化の推進
4. 公共施設等の最適な配置の実現(学区割も検討する必要がある)



1. 地域社会の実情にあった将来のまちづくりに不可欠
2. 国土強靱化にも資する

4

学校施設の長寿命化計画策定の考え方



目標設定



(1) 長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

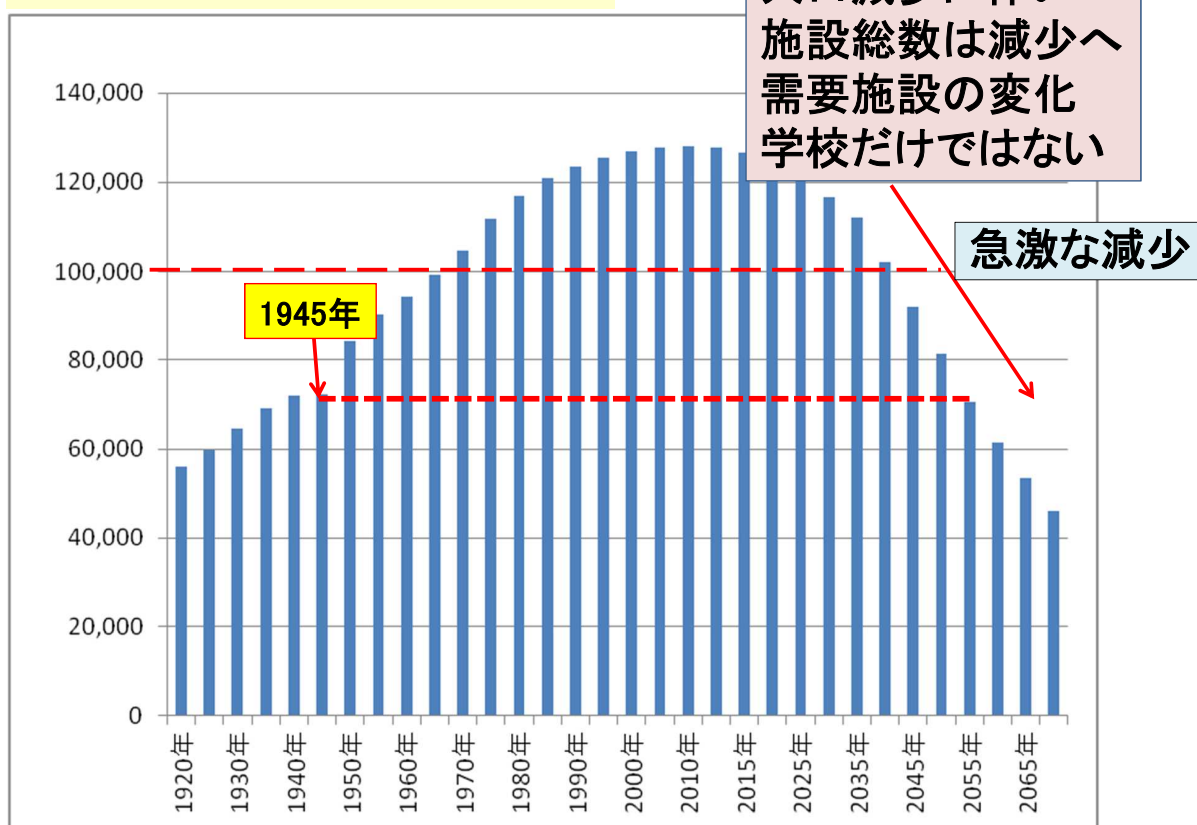
- 1) 総人口数と年少人口数の減少
- 2) 国と地方の厳しい財政状況

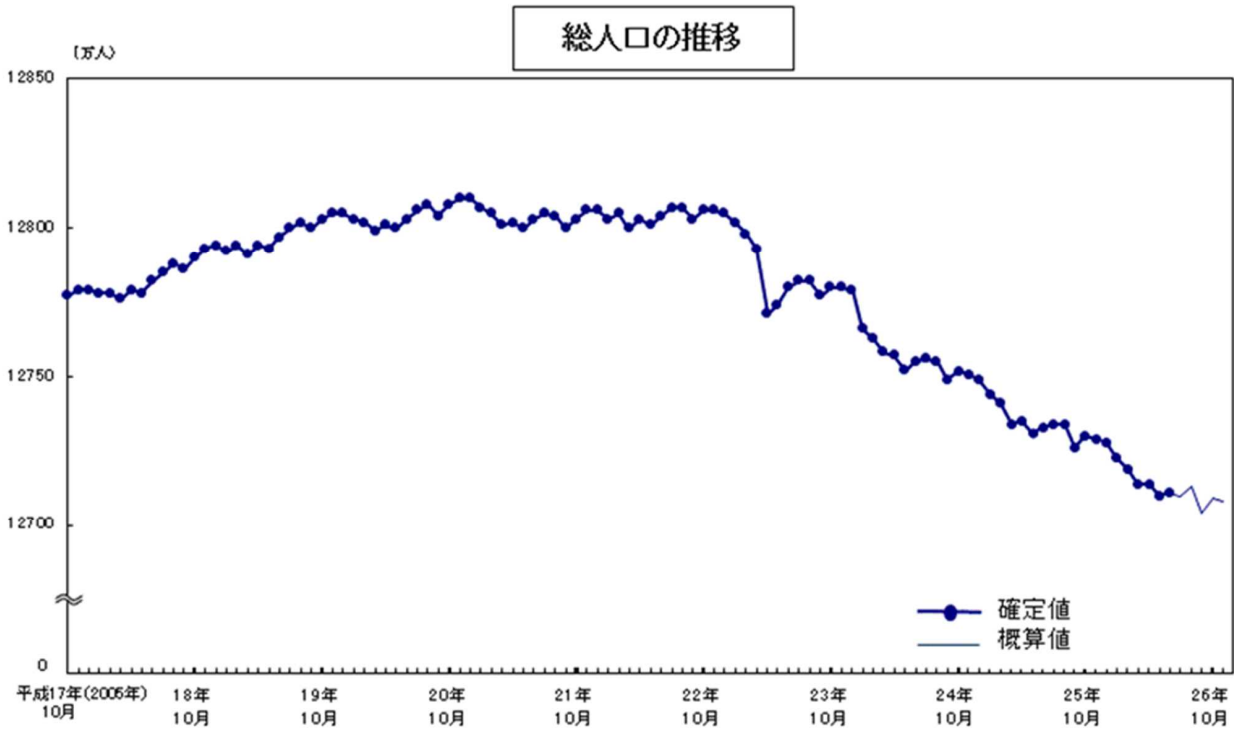


地方公共団体での保有率・保有数が多い学校を今後、どのようにしていくのかが問われている？



1) 総人口数の減少





最近10年間(2005～2014年)の日本の総人口数の推移

総務省統計局人口確定データより引用

9

平成22年(2010年)の総人口数を100としたときの人口推計割合

平成22年(2010年)の総人口数を100としたときの割合					
		平成37年(2025年)		平成52年(2040年)	
	全国	94.2	全国	83.8	
1	沖縄県	101.5	沖縄県	98.3	
2	東京都	100.1	東京都	93.5	
3	神奈川県	99.6	滋賀県	92.8	
4	愛知県	99.2	愛知県	92.5	
5	滋賀県	99.1	神奈川県	92.2	
43	山形県	86.0	山形県	71.5	
44	岩手県	85.7	岩手県	70.5	
45	高知県	85.6	高知県	70.2	
46	青森県	84.6	青森県	67.9	
47	秋田県	82.2	秋田県	64.4	

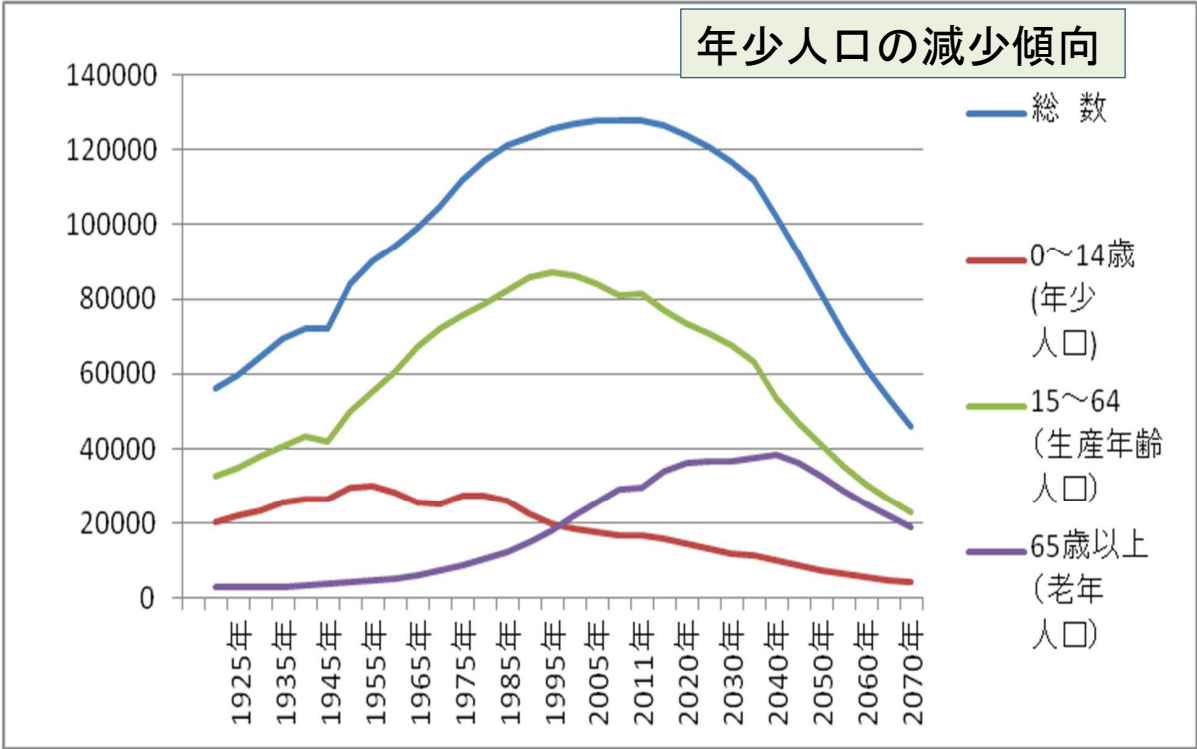
総数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	323,600	312,560	299,969	285,462	269,696	253,073	235,500
能代市	59,084	54,916	50,754	46,519	42,378	38,455	34,739
横手市	98,367	92,477	86,464	80,422	74,587	69,004	63,466
大館市	78,946	74,498	69,816	64,961	60,153	55,587	51,183
男鹿市	32,294	29,284	26,572	23,857	21,229	18,727	16,328
湯沢市	50,849	46,534	42,541	38,674	35,047	31,646	28,396
鹿角市	34,473	32,031	29,708	27,401	25,168	23,082	21,140
由利本荘市	85,229	80,582	75,837	70,930	66,037	61,247	56,462
潟上市	34,442	32,944	31,292	29,453	27,521	25,557	23,548
大仙市	88,301	82,641	76,957	71,226	65,692	60,478	55,357
北秋田市	36,387	32,939	29,765	26,686	23,767	21,095	18,630
にかほ市	27,544	26,005	24,441	22,828	21,201	19,592	18,008
仙北市	29,568	27,293	25,091	22,869	20,707	18,682	16,743
小坂町	6,054	5,437	4,894	4,354	3,858	3,409	3,014
上小阿仁村	2,727	2,423	2,133	1,869	1,628	1,425	1,246
藤里町	3,848	3,527	3,122	2,745	2,402	2,096	1,820
三種町	18,876	17,238	15,680	14,139	12,678	11,309	10,006
八峰町	8,220	7,454	6,735	6,025	5,371	4,760	4,179
五城目町	912	700	539	448	374	318	276
八郎潟町	6,623	6,218	5,787	5,350	4,916	4,487	4,069
井川町	5,493	5,142	4,793	4,432	4,076	3,726	3,389
大潟村	3,218	3,219	3,175	3,104	3,031	2,963	2,895
美郷町	21,674	20,208	18,755	17,320	15,950	14,653	13,363
羽後町	16,792	15,385	14,090	12,857	11,719	10,659	9,623
東成瀬村	2,872	2,661	2,449	2,248	2,060	1,884	1,719

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用 11

総数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	100	96.6	92.7	88.2	83.3	78.2	72.8
能代市	100	92.9	85.9	78.7	71.7	65.1	58.8
横手市	100	94.0	87.9	81.8	75.8	70.1	64.5
大館市	100	94.4	88.4	82.3	76.2	70.4	64.8
男鹿市	100	90.7	82.3	73.9	65.7	58.0	50.6
湯沢市	100	91.5	83.7	76.1	68.9	62.2	55.8
鹿角市	100	92.9	86.2	79.5	73.0	67.0	61.3
由利本荘市	100	94.5	89.0	83.2	77.5	71.9	66.2
潟上市	100	95.7	90.9	85.5	79.9	74.2	68.4
大仙市	100	93.6	87.2	80.7	74.4	68.5	62.7
北秋田市	100	90.5	81.8	73.3	65.3	58.0	51.2
にかほ市	100	94.4	88.7	82.9	77.0	71.1	65.4
仙北市	100	92.3	84.9	77.3	70.0	63.2	56.6
小坂町	100	89.8	80.8	71.9	63.7	56.3	49.8
上小阿仁村	100	88.9	78.2	68.5	59.7	52.3	45.7
藤里町	100	91.7	81.1	71.3	62.4	54.5	47.3
三種町	100	91.3	83.1	74.9	67.2	59.9	53.0
八峰町	100	90.7	81.9	73.3	65.3	57.9	50.8
五城目町	100	76.8	59.1	49.1	41.0	34.9	30.3
八郎潟町	100	93.9	87.4	80.8	74.2	67.7	61.4
井川町	100	93.6	87.3	80.7	74.2	67.8	61.7
大潟村	100	100.0	98.7	96.5	94.2	92.1	90.0
美郷町	100	93.2	86.5	79.9	73.6	67.6	61.7
羽後町	100	91.6	83.9	76.6	69.8	63.5	57.3
東成瀬村	100	92.7	85.3	78.3	71.7	65.6	59.9

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

人口構成の変化



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

平成22年(2010年)の総人口数を100としての比較

平成22年(2010年)の年少人口数を100としたときの割合				平成22年(2010年)の生産年齢人口数を100としたときの割合			
平成37年(2025年)		平成52年(2040年)		平成37年(2025年)		平成52年(2040年)	
全国	78.6	全国	63.7	全国	86.7	全国	70.8
東京都	88.3	沖縄県	77.3	東京都	95.0	沖縄県	84.5
沖縄県	86.2	愛知県	72.8	沖縄県	93.9	滋賀県	80.2
愛知県	84.6	滋賀県	72.3	愛知県	93.1	愛知県	79.8
滋賀県	84.0	東京都	71.4	滋賀県	92.5	東京都	79.3
神奈川県	82.7	神奈川県	68.7	神奈川県	92.1	神奈川県	76.4
山形県	70.8	高知県	53.4	山形県	77.7	徳島県	60.6
岩手県	69.1	岩手県	53.0	岩手県	77.5	岩手県	59.5
和歌山県	68.6	和歌山県	52.5	高知県	77.0	高知県	59.3
秋田県	65.0	秋田県	47.0	青森県	75.1	青森県	54.9
青森県	64.1	青森県	46.6	秋田県	71.8	秋田県	52.3

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

0-14歳	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	39,592	35,045	30,809	26,952	23,675	21,360	19,508
能代市	6,532	5,563	4,728	4,038	3,462	3,067	2,791
横手市	11,371	10,000	8,783	7,721	6,865	6,250	5,776
大館市	9,027	7,816	6,818	5,972	5,284	4,811	4,442
男鹿市	2,773	2,242	1,845	1,543	1,308	1,123	966
湯沢市	5,691	4,555	3,708	3,122	2,660	2,348	2,117
鹿角市	3,996	3,463	3,053	2,683	2,397	2,207	2,066
由利本荘市	9,966	8,733	7,785	6,838	6,064	5,520	5,074
潟上市	4,247	3,631	3,018	2,608	2,254	2,001	1,819
大仙市	9,743	8,514	7,475	6,543	5,807	5,285	4,855
北秋田市	3,581	2,888	2,395	2,019	1,729	1,533	1,382
にかほ市	3,347	2,848	2,394	2,097	1,854	1,683	1,548
仙北市	3,179	2,773	2,383	2,039	1,767	1,556	1,399
小坂町	610	513	407	361	302	260	236
上小阿仁村	213	153	122	101	82	73	67
藤里町	344	294	239	196	165	145	130
三種町	1,811	1,406	1,151	960	816	715	632
八峰町	812	632	489	400	332	285	254
五城目町	912	700	539	448	374	318	276
八郎潟町	682	598	495	419	361	318	284
井川町	610	500	408	353	305	268	244
大潟村	506	459	425	401	387	397	409
美郷町	2,369	2,062	1,752	1,523	1,349	1,217	1,103
羽後町	1,846	1,487	1,262	1,087	954	857	772
東成瀬村	330	276	230	205	183	165	153

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用 15

0-14歳	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	100	88.5	77.8	68.1	59.8	54.0	49.3
能代市	100	85.2	72.4	61.8	53.0	47.0	42.7
横手市	100	87.9	77.2	67.9	60.4	55.0	50.8
大館市	100	86.6	75.5	66.2	58.5	53.3	49.2
男鹿市	100	80.9	66.5	55.6	47.2	40.5	34.8
湯沢市	100	80.0	65.2	54.9	46.7	41.3	37.2
鹿角市	100	86.7	76.4	67.1	60.0	55.2	51.7
由利本荘市	100	87.6	78.1	68.6	60.8	55.4	50.9
潟上市	100	85.5	71.1	61.4	53.1	47.1	42.8
大仙市	100	87.4	76.7	67.2	59.6	54.2	49.8
北秋田市	100	80.6	66.9	56.4	48.3	42.8	38.6
にかほ市	100	85.1	71.5	62.7	55.4	50.3	46.3
仙北市	100	87.2	75.0	64.1	55.6	48.9	44.0
小坂町	100	84.1	66.7	59.2	49.5	42.6	38.7
上小阿仁村	100	71.8	57.3	47.4	38.5	34.3	31.5
藤里町	100	85.5	69.5	57.0	48.0	42.2	37.8
三種町	100	77.6	63.6	53.0	45.1	39.5	34.9
八峰町	100	77.8	60.2	49.3	40.9	35.1	31.3
五城目町	100	76.8	59.1	49.1	41.0	34.9	30.3
八郎潟町	100	87.7	72.6	61.4	52.9	46.6	41.6
井川町	100	82.0	66.9	57.9	50.0	43.9	40.0
大潟村	100	90.7	84.0	79.2	76.5	78.5	80.8
美郷町	100	87.0	74.0	64.3	56.9	51.4	46.6
羽後町	100	80.6	68.4	58.9	51.7	46.4	41.8
東成瀬村	100	83.6	69.7	62.1	55.5	50.0	46.4

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用 16

15—64歳	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	100	91.0	83.3	76.8	70.6	64.1	56.4
能代市	100	87.2	76.8	68.8	61.9	55.1	48.0
横手市	100	89.7	79.5	71.4	65.5	60.2	54.3
大館市	100	89.7	80.7	73.8	67.5	61.9	55.4
男鹿市	100	83.3	69.7	59.3	51.4	45.0	38.4
湯沢市	100	88.5	76.9	66.4	58.1	51.0	44.1
鹿角市	100	88.5	78.6	71.1	64.4	59.1	53.0
由利本荘市	100	89.6	79.7	72.2	66.4	61.3	55.2
潟上市	100	89.7	81.2	74.2	67.7	61.2	53.8
大仙市	100	89.3	78.8	70.9	64.3	58.8	52.8
北秋田市	100	84.9	72.0	62.0	53.5	46.9	40.7
にかほ市	100	89.6	80.5	73.5	67.1	60.9	54.8
仙北市	100	85.3	73.7	64.7	57.8	52.4	45.7
小坂町	100	84.7	75.2	65.7	56.9	49.0	42.3
上小阿仁村	100	85.7	71.0	61.4	51.9	43.7	38.0
藤里町	100	84.5	70.1	59.1	52.2	44.2	36.9
三種町	100	85.5	72.2	60.9	52.4	45.8	39.2
八峰町	100	85.1	73.1	62.1	53.0	45.5	37.8
五城目町	100	83.5	70.6	60.4	51.9	44.5	37.9
八郎潟町	100	86.8	74.8	65.7	59.1	52.9	46.7
井川町	100	87.9	77.0	69.0	61.6	55.5	48.3
大潟村	100	95.2	94.9	94.2	91.3	86.6	82.7
美郷町	100	89.2	79.0	69.9	63.4	58.1	52.5
羽後町	100	89.4	77.1	66.0	57.9	52.3	46.8
東成瀬村	100	90.8	78.8	68.3	61.3	56.7	51.6

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

17

65歳以上	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	100	115.4	125.0	128.6	129.1	127.9	127.9
能代市	100	105.5	106.2	101.7	95.0	88.5	82.9
横手市	100	104.1	107.1	105.7	100.3	93.8	88.2
大館市	100	105.5	106.9	103.3	98.1	91.8	87.4
男鹿市	100	105.7	107.4	103.0	94.6	84.3	74.9
湯沢市	100	100.7	101.8	100.0	95.3	88.8	82.6
鹿角市	100	102.5	102.3	98.0	92.2	84.4	78.7
由利本荘市	100	107.4	112.2	111.4	106.7	99.9	94.8
潟上市	100	114.7	123.4	124.1	121.9	118.2	115.5
大仙市	100	103.6	105.9	103.1	97.9	91.0	85.1
北秋田市	100	101.5	100.3	94.6	87.3	78.3	70.1
にかほ市	100	108.2	112.6	110.4	106.1	100.7	95.0
仙北市	100	105.5	106.5	102.5	95.0	85.6	78.9
小坂町	100	98.9	93.0	84.6	77.7	70.8	63.9
上小阿仁村	100	95.2	89.6	79.9	71.8	64.5	56.4
藤里町	100	102.6	98.4	90.8	79.3	70.9	63.2
三種町	100	104.6	105.9	103.5	97.1	88.3	80.3
八峰町	100	102.8	101.4	96.9	90.9	83.0	76.1
五城目町	100	102.0	99.8	92.5	83.7	74.5	65.6
八郎潟町	100	109.3	115.9	115.5	109.7	102.7	95.6
井川町	100	107.8	112.6	109.4	105.1	98.2	93.2
大潟村	100	116.7	116.2	112.2	111.5	112.8	112.1
美郷町	100	102.8	104.5	103.5	97.8	90.5	83.5
羽後町	100	99.5	101.4	101.7	97.4	89.4	81.5
東成瀬村	100	98.8	101.3	100.2	94.6	85.6	78.1

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

18

75歳以上	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	100	114.4	124.8	145.3	156.8	159.0	156.0
能代市	100	106.4	107.5	113.8	114.1	107.8	98.9
横手市	100	103.2	99.7	104.5	109.8	109.2	101.4
大館市	100	108.9	110.1	115.7	116.6	111.5	105.0
男鹿市	100	104.1	104.3	112.1	113.8	107.6	95.1
湯沢市	100	101.1	97.4	98.2	101.3	101.2	95.5
鹿角市	100	104.8	103.1	106.3	106.0	100.9	94.1
由利本荘市	100	106.6	105.7	114.8	121.5	120.5	113.1
潟上市	100	113.5	123.3	143.2	153.9	151.8	145.2
大仙市	100	104.7	100.3	103.9	107.8	105.6	98.9
北秋田市	100	104.5	102.0	103.2	101.8	95.5	87.2
にかほ市	100	108.1	109.5	120.4	125.8	121.4	114.2
仙北市	100	106.2	102.8	109.6	111.0	106.2	96.1
小坂町	100	103.3	101.1	100.3	91.4	81.5	75.5
上小阿仁村	100	98.6	92.4	86.1	81.6	72.5	65.5
藤里町	100	106.4	100.1	98.1	95.5	88.1	74.5
三種町	100	105.2	103.8	108.1	110.3	108.4	100.2
八峰町	100	98.3	95.9	99.9	98.9	94.5	86.6
五城目町	100	104.8	101.6	104.0	101.0	92.2	81.3
八郎潟町	100	110.7	113.0	123.4	132.5	131.6	121.9
井川町	100	105.2	108.6	117.6	123.6	118.5	111.4
大潟村	100	133.8	159.8	181.3	171.2	158.9	156.7
美郷町	100	102.1	96.8	99.9	103.8	104.7	97.1
羽後町	100	98.5	89.2	89.2	94.6	98.3	93.5
東成瀬村	100	100.0	92.4	90.3	96.5	98.3	91.9

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

2010年からの人数増減表

75歳以上	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
秋田市	39,562	5,695	9,815	17,909	22,476	23,330	22,137
能代市	10,456	674	779	1,440	1,472	819	▲ 119
横手市	17,832	574	▲ 57	803	1,754	1,644	257
大館市	13,468	1,203	1,363	2,118	2,234	1,554	668
男鹿市	6,032	246	259	732	831	456	▲ 294
湯沢市	9,536	107	▲ 252	▲ 167	125	110	▲ 432
鹿角市	6,252	303	194	392	375	59	▲ 369
由利本荘市	13,870	916	788	2,055	2,982	2,850	1,814
潟上市	4,496	605	1,048	1,941	2,424	2,327	2,032
大仙市	15,929	741	55	620	1,238	894	▲ 180
北秋田市	7,452	336	147	239	135	▲ 333	▲ 957
にかほ市	4,260	344	403	870	1,101	913	606
仙北市	5,589	349	156	534	612	347	▲ 218
小坂町	1,179	39	13	4	▲ 101	▲ 218	▲ 289
上小阿仁村	728	▲ 10	▲ 55	▲ 101	▲ 134	▲ 200	▲ 251
藤里町	863	55	1	▲ 16	▲ 39	▲ 103	▲ 220
三種町	3,721	192	143	302	385	311	9
八峰町	1,680	▲ 28	▲ 69	▲ 2	▲ 18	▲ 93	▲ 225
五城目町	2,134	103	35	85	21	▲ 167	▲ 399
八郎潟町	1,140	122	148	267	370	360	250
井川町	997	52	86	175	235	184	114
大潟村	358	121	214	291	255	211	203
美郷町	3,985	83	▲ 129	▲ 2	152	189	▲ 117
羽後町	3,237	▲ 49	▲ 348	▲ 351	▲ 176	▲ 54	▲ 212
東成瀬村	579	0	▲ 44	▲ 56	▲ 20	▲ 10	▲ 47

2023年問題
団塊世代が
75歳以上に

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」から引用

2) 地方公共団体の厳しい財政

市町村別の財政力指数等

都道府県名	団体名	財政力指数
鹿児島県	三島村	0.05
鹿児島県	十島村	0.05
山梨県	丹波山村	0.06
沖縄県	渡名喜村	0.06
島根県	知夫村	0.07
鹿児島県	大和村	0.07
北海道	島牧村	0.08
北海道	中頓別町	0.08
北海道	西興部村	0.08
福島県	昭和村	0.08
新潟県	粟島浦村	0.08
奈良県	野迫川村	0.08
沖縄県	伊平屋村	0.08
北海道	幌加内町	0.09
北海道	初山別村	0.09
青森県	西目屋村	0.09
青森県	風間浦村	0.09
山梨県	小菅村	0.09
奈良県	上北山村	0.09
島根県	海士町	0.09
高知県	大川村	0.09
大分県	姫島村	0.09
鹿児島県	宇検村	0.09
沖縄県	渡嘉敷村	0.09
沖縄県	座間味村	0.09

都道府県名	団体名	経常収支比率
北海道	夕張市	120.9
宮城県	多賀城市	107.1
沖縄県	渡名喜村	106.2
沖縄県	渡嘉敷村	105.9
京都府	笠置町	105.8
大阪府	忠岡町	104.3
福島県	檜葉町	104.1
群馬県	安中市	103.8
東京都	日の出町	102.9
沖縄県	伊是名村	102.5
奈良県	御所市	101.3
神奈川県	三浦市	101.0
奈良県	天理市	100.6
大阪府	岸和田市	100.5
京都府	京都市	100.3
福岡県	苅田町	100.3
愛知県	名古屋市	100.2
大阪府	松原市	100.2
宮城県	岩沼市	100.0

都道府県名	団体名	将来負担比率
北海道	夕張市	748.7
大阪府	泉佐野市	302.1
青森県	大鰐町	277.0
兵庫県	上郡町	257.5
奈良県	河合町	254.5
千葉県	千葉市	248.0
広島県	大竹市	242.9
兵庫県	淡路市	237.8
青森県	鱒ヶ沢町	237.4
京都府	京都市	230.2
広島県	広島市	228.2
滋賀県	栗東市	219.4
兵庫県	篠山市	219.1
大阪府	交野市	210.1
奈良県	平群町	209.7
島根県	出雲市	206.6
青森県	むつ市	204.3
大阪府	高石市	203.9

総務省地方財政地方財政状況関係資料
(平成25年度主要財政指標一覧)から引用

21

2015年6月1日

財政制度等審議会

財政健全化計画等に関する建議(抜粋)

1. デフレ脱却・経済再生に最大限取り組み、「経済再生ケース」を実現し、できる限りの税収増を図る
2. 確実に収支改善するため、歳出改革を柱とする
3. 2016年度以降は、**国・地方の歳出規律を設ける**べきであり、国については「一般歳出」の水準をメルクマール(指標)とする(「一般歳出」=一般会計歳出-国債費-地方交付税交付金等)
4. 地方財政については、国と同様の歳出改革の取組が不可欠
5. 地方一般財源総額について、その水準を、リーマンショック前の水準を目安に見直す

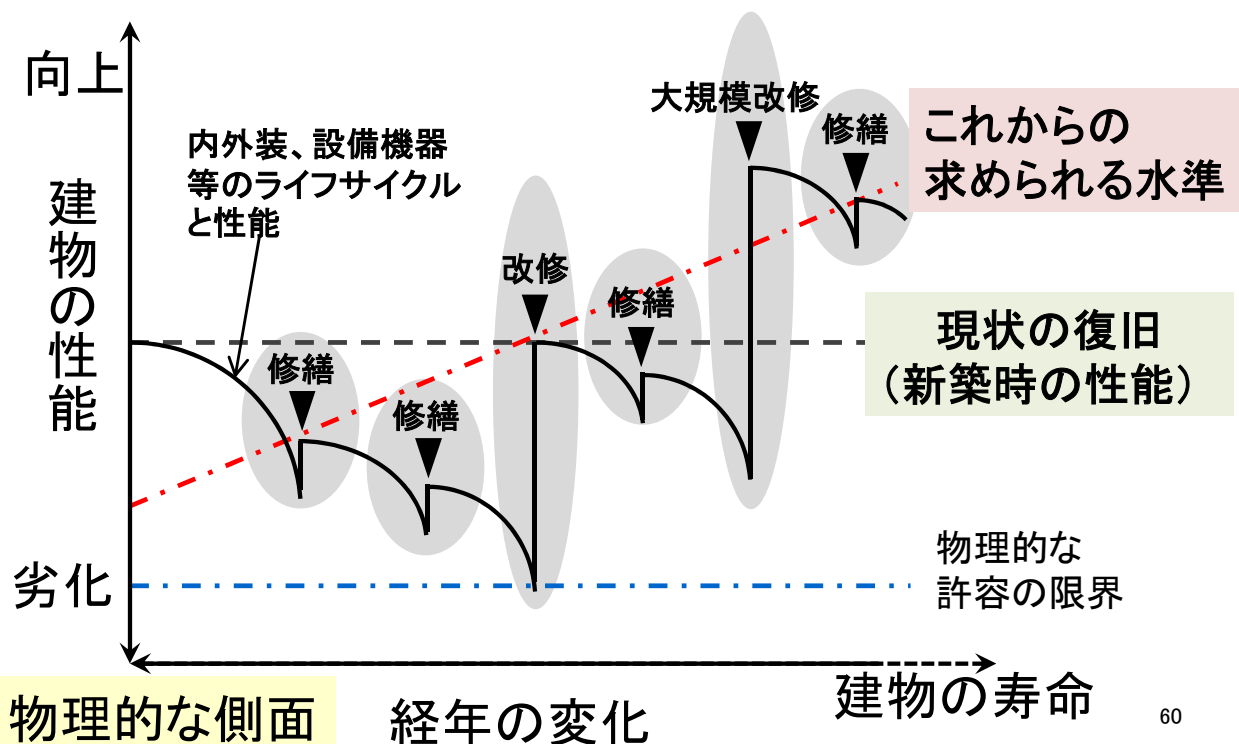
公共事業

1. 新規投資に当たっては、国際競争力強化や防災対策であっても、費用対効果を厳しく見極め、これまで以上に厳選する
2. 既存の社会資本の老朽化対策は、人口減少等を踏まえ、計画的かつ効率的に対応し、安全性を維持しながら、費用を抑制する
3. 事業実施に際して、PPP/PFIといった民間活力・民間資金や適切な受益者負担の活用、税制や規制の見直し、最新の技術的知見による効率化・生産性の向上等を通じ、公費負担を抑制
4. 人口減少を踏まえ、全体の公共事業関係費は増やさないことを前提に、個別の社会資本の必要性を見極め、必要不可欠な社会資本の機能を確保する

23

② 学校施設の長寿命化計画の策定目的

どこを目標としていくのか(物理的な機能・性能向上、安全・安心の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点(複合化)等

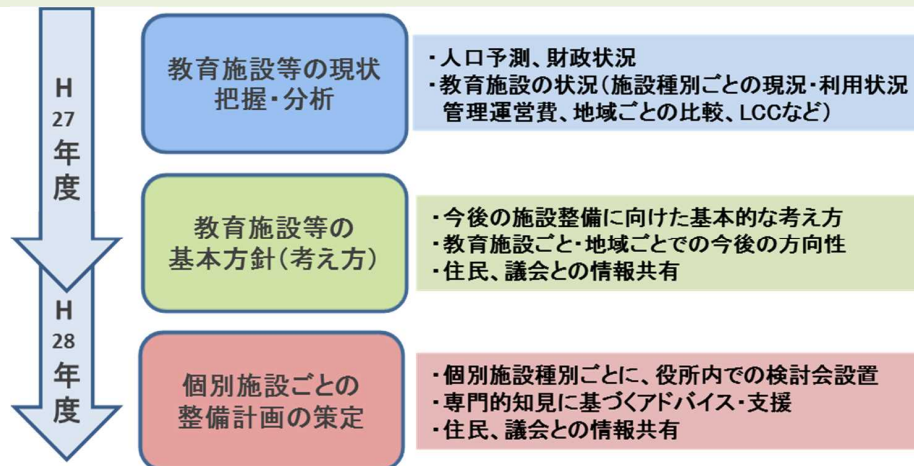


60

③ 基本的な基本計画期間及び ④ 対象施設

10年以上の計画期間(ex.H27～H36年度)

- ・最低10年間、ほぼ計画期間20年から30年間が多い
長い自治体は40年以上の計画期間、5年程度で見直しを
- ・最初の数年間は具体的な施設名称を出す、総合計画との整合も必要、約10年間での検討学校を
- ・対象は公立学校施設＋社会教育施設、社会体育施設も



25

現在の学校施設に迫る課題は、公共建物や民間建物との共通事項が多い

1. 一斉に迎える老朽化
 - ・ 高度成長時期の建物の老朽化
(施工などの課題が多い)
 - ・ バブル期の建物の設備更新(都庁舎)
2. 総人口数の減少と人口構成の変化に伴う
 - ・ 社会ニーズの変化 ⇒ 量と質の変化
3. 地球環境への配慮とエネルギーの効率化
 - ・ エネルギー効率への設備更新

26

(2) 学校施設の目指すべき姿



1. 安全性
 2. 快適性
 3. 学習活動への適応性
 4. 環境への適応性
 5. 地域の拠点化
1. 避難所としての、BCP対応の学校施設とは。
例えば、体育館にはシャワー設備等
 2. 空調施設の導入(省エネ)、バリアフリー(UD)
 3. ICT化、センター化、公民連携、地域との交流
 4. エコスクール(省エネ)
 5. 複合化、コンバージョン
- ・ 財政面からのアプローチ
 - ・ 既存施設を、いかに長寿命化できるか

実態把握

(3) 学校施設の実態

29

① 学校施設の運用・活用状況等の実態把握

(および将来計画)

1) 建物・インフラの現状(記録)の把握

- ① 個々の建物、インフラごとのデータはあるが、ICT化されているか。
- ② データが統一された教育委員会の部署を超えて、首長部局の部署と連携して把握されているか

2) 劣化状況の把握

- ① 物理的劣化:老朽化による劣化
- ② 法令的劣化:ex 旧耐震施設、既存不適格の扱い
- ③ 機能的劣化:現状の機能に堪えられない
ex 環境対策(CO₂削減、省エネ等)

3) 空き教室等の利用状況の把握

- ① 使用教室の利用状況(教室別)は把握されているか
- ② 空き教室の利用状況(部屋別)は把握されているか
- ③ 学校プール、体育館などは、どのようになっているのか

4) ランニングコスト(人件費を含む)の把握



5) 学校施設の評価

6) 将来、学校施設として、存続した場合の費用推計

7) 将来の学校施設の自治体区域での配置計画 (児童・生徒数及び学級数の時間的な変化への対応)

31

図書館運営事業(学校施設も同様に)

事業別行政コスト計算書		図書貸出一冊当たりのコスト	
(単位:千円)		512円	
		(H24年度図書貸出冊数 120,355冊)	
行政コスト	収入	市民一人当たりの税金等投入額	
①人にかかるコスト	①特定の財源	1,101円	
35,661 (57.9%)	1,050 (1.7%)	(平成25年4月1日人口 55,018人)	
②物にかかるコスト	②その他の財源		
25,946 (42.1%)	(純行政コスト)		
③業務関連コスト	60,579 (98.3%)		
0 (0.0%)			
④移転支出的なコスト			
22 (0.0%)			
61,629 (100.0%)	61,629 (100.0%)		
事業概要		 <p style="text-align: right;">(中央図書館) (岐阜県美濃加茂市のHPから引用)</p>	
<p>一般図書と児童図書を合わせて約13万5千冊の蔵書がある中央図書館の運営にかかる経費です。このコストには、三和コミュニティセンター内の北部分室の経費も含まれています。 司書業務を行う職員の人件費割合が多くを占めています。</p>			

32

<現状の把握>

- 何がどこにあるのか * 台帳の整備済み
- どのように、なっているのか * 現状の把握(劣化状況等)
- 何にどれだけ使われているのか * ランニングコストの把握
(光熱水費+維持管理費など)



<分析>

- どのように、使われているのか * 利用状況の把握
(1人当たり、延べ面積当たりの費用)
- 学校環境とコスト * 費用対効果



<将来の推計>

- 今後、どのくらい掛かるのか、必要なのか * 将来費用の推計
- 今後、どうしていくのか * 将来の計画

33

② 学校施設の老朽化状況の実態



給水管の閉塞状況

(現在、そして30年後も繰り返すのか)

給水管継ぎ手の劣化状況

34

男子トイレ小便器の排水管

DPS内排水本管への
縦管合流部



尿石などの詰り



DPS掃除口



天井内掃除口



35

体育館の天井などの非構造部材への対応の必要性



(3.11福島県民ホール天井落下)

36

老朽化状況の実態把握方法

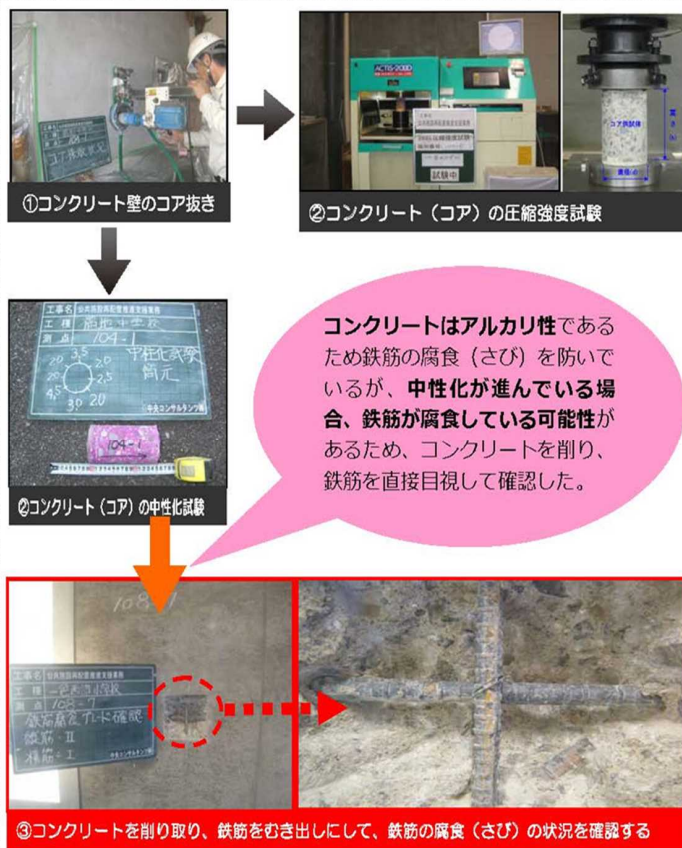
学校建物の日常点検のポイント

安全で事故のない施設のため、特に日々気をつけてチェックしていただきたい項目についてまとめました。利用者の命に関わる危険がないか、実際に施設を歩き、不具合箇所がないか見て、触って、日々点検を行いましょ。

<p>敷地・外構の点検</p> <p>マンホール蓋のずれ 門のぐらつき 舗装の割れ</p>	<p>① 舗装のひび割れ・陥没・傾斜・損傷 人が落ちたり、つまずいたりする箇所はありませんか。危険な箇所は、カラーコーンなどで注意喚起をして早急に修理しましょう。</p> <p>② マンホールや溝蓋の外れ・損傷 人が落ちたり、つまずいたりする箇所はありませんか。危険な箇所は、カラーコーンなどで注意喚起をして早急に修理しましょう。</p> <p>③ 門やフェンスの傾き・腐食・変形 ぐらつきがあり倒れそうな場合は、注意喚起し、施設所管課に連絡してください。</p>
<p>建物外部の点検</p> <p>ひび割れ 底の落下 外壁の落下</p>	<p>④ 外壁や庇(ひさし)の亀裂・浮き 人が歩くルートや壁や庇に亀裂や浮きがありませんか。落下しそうな部分を見つけた場合は、直下を立入禁止にし、施設所管課に連絡して下さい。</p> <p>⑤ 金属製の手摺・金物が傷みやぐらつき 触った人が落ちる可能性はありませんか。取り付けているものが落ちそうになっていませんか。</p> <p>⑥ 空調機(室外機・室内機)の変形・異常音・異臭等 いつもと違う臭いや音がありませんか。異常ランプが点灯していませんか。</p>
<p>建物内部の点検</p> <p>防火シャッターの障害物 避難経路の荷物 段差</p>	<p>⑦ 高所にあるものの落下 空調機・電気器具など、上部にあるものが傷みやぐらつきがありませんか。天井点検口はきちんと閉まっていますか。</p> <p>⑧ 避難経路(防火戸・廊下・階段)、避難器具(避難はしご・救助袋)、消防設備(消火器・消火栓・火災報知器・排煙オペレーター) 避難経路に、避難するときに邪魔なものが置いてありませんか。また、避難器具や消防設備の周囲に障害物はありませんか。</p> <p>⑨ ガス漏れ警報器の電源 電源が切れていないか、有効期限が切れていないか、確認して下さい。</p> <p>⑩ エレベーターの出入口 出入口の段差などにいつもと違う状態はありませんか。異常がある場合は、すぐに使用禁止とし施設所管課に連絡してください。</p>

この点検項目は、施設点検 VTR「五感を使って施設の日常点検をしよう！～学校編～」のもので、学校以外の施設の日常点検にも、共通して使えます。

専門的な調査(鉄筋コンクリート造の構造体劣化調査の流れ)



学校の躯体の劣化によるリスク

1. コンクリートの剥落による人命や器物の損傷
2. コンクリート強度不足による部分的な崩壊(補修)
3. 管理者の責任が生じ、業務上過失傷害(致死)等の刑事責任を問われる可能性あり(ふじみ野市 プール事故責任)

「西尾市公共施設白書2013」の劣化度調査から引用

39

日本ではどうなっているのか、海外は

- 1) 夕張市は、いまどうなっているか
- 2) 秦野市の場合
- 3) 高松市の場合
- 4) 海外では(米:サンディ・スプリングス市)

夕張市の今

2007年 353億円の赤字を抱えて破綻
破綻すると、空気みたいなものであったと思われる
行政が行っていたことへの負担が増大

- ①ごみ収集の有料化、②水道料金の値上げ、
- ③施設利用料は高い自治体に合わせる
- ④**学校も小中各1校へ統廃合**（小学校6校⇒1校、
中学校3校⇒1校）等々



鈴木市長は、「全国で最高の負担、最低のサービス」
職員は260人から86人へ（H25.4）、給与も削減
議員数も、18人から9人へ、報酬は、40%カット

41

神奈川県秦野市の場合

今の公共施設をすべて維持するには
今後40年間で、
改修費97億円＋更新費661億円＝758億円必要

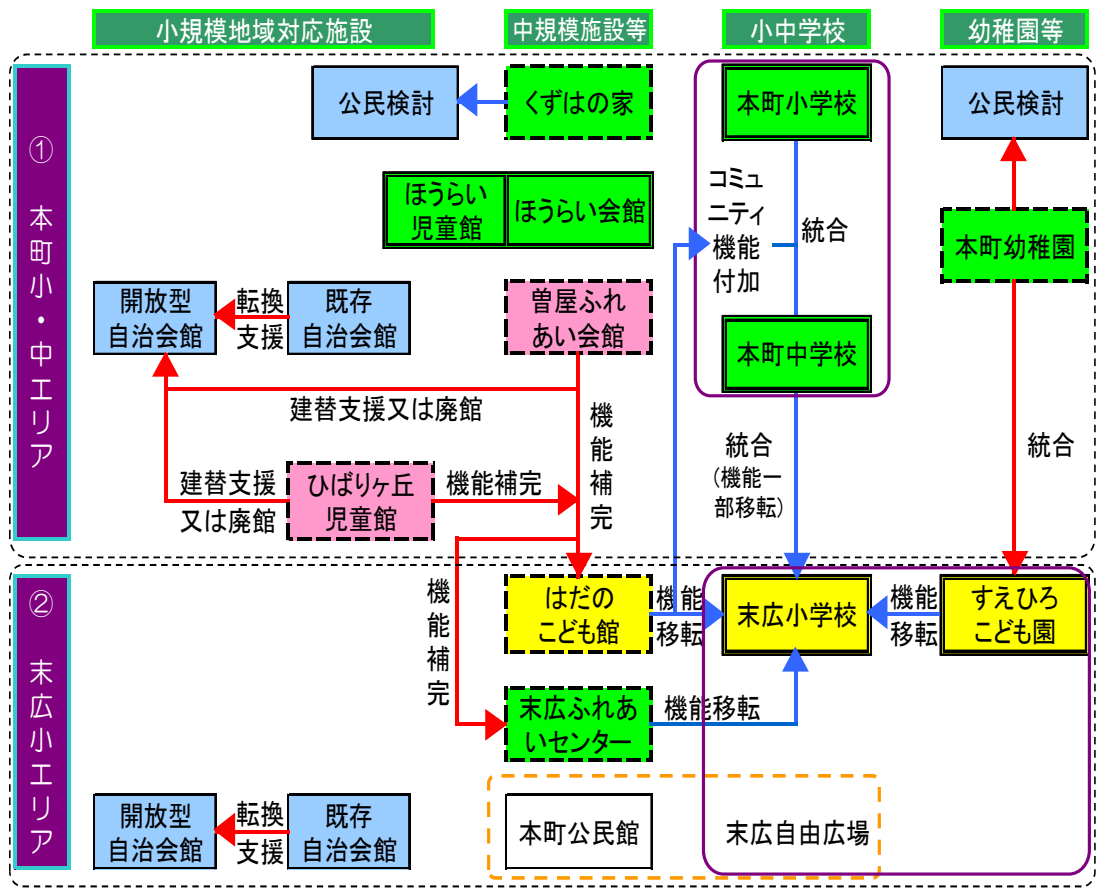
50%しか更新しなくても、20年で財源が不足する



公共建物面積を今後40年間で、**31%削減**
＋**大幅な管理運営費削減**

- ・ スマートライブラリー（完全無人化）の実証実験開始
イオン隣接の公民館図書室（最も利用が高い）
- ・ 郵便局、コンビニの活用

42



秦野市提供資料

香川県高松市の場合

市町村合併で、多くの公共施設を保有
それぞれの地域で、市民ニーズや地域実情で設置
同じ目的の施設が重複設置
基本方針では、

(パターン1)

今後50年間、定率で削減していく場合、施設保有量の
44.5%の削減が必要

(パターン2)

FM導入後15年間で削減する場合、**31.6%**の削減が必要

そのため、①施設再編を行う地域区分の設定

②再編整備検討③再編整備イメージ作成

④多機能化、複合化検討

自治体を民間が運営する都市

サンディ・スプリングス市(米)の衝撃

・公共サービスは警察・消防を除くと、すべて民間企業への全面委託方式(市が資産保有、税収から契約料支払)

・2005年12月(人口約10万人)市制へ。市長1人、市職員4人、議員6人。警察120人、消防90人。

(2014年3月現在、消防・警察の他は、市長1人、職員9人、議員6人。)

・包括的な自治体運営の効果

① 同規模の市予算に比べて半分以下。

② 周辺市と比べて、固定資産税率が半分以下。

・その後、6市が設立。

45

業務領域	実施内容	実施形態
シティマネジメント	シティマネージャー、政策立案、補助金管理、人事等	法務
公共安全	警察、消防	911対応、救急医療サービス
財務	徴収、物品調達、会計、予算案作成支援、人事配置支援	
情報サービス	ITインフラ整備、ITサポート、GIS	
広報広聴	広報広聴、報道対応、年次報告作成	
市裁判所	裁判所運営	法律事務、保護観察対応
コールセンター		
交通サービス	道路設計(橋梁含む)、交通管制、交通量調査、	信号管理、標識管理等
交通計画	基本計画、実施計画、道路整備関連(用地調整等)	
下水道(雨水含む)管理	設計・施工、プロジェクト管理、法規制指導	下水道メンテナンス
道路サービス	道路マネジメント、道路工事調整、	道路・橋梁メンテナンス、緊急対応
公共施設改善	PM、CM、契約順守、公共建物メンテナンス	
地域活動/公園	地域活動企画、公園開発・設計	公園メンテナンス
地域計画/ゾーニング	ゾーニング計画、許認可、総合計画、経済的発展計画	
建築・開発許可	建築許可、開発許可、建物検査、開発管理計画	
法令執行		

市が実施
独立した契約業務
単体の契約業務
包括的な委託業務
下請け契約

サンディ・スプリングス市資料に基づき
山本康友客員教授作成

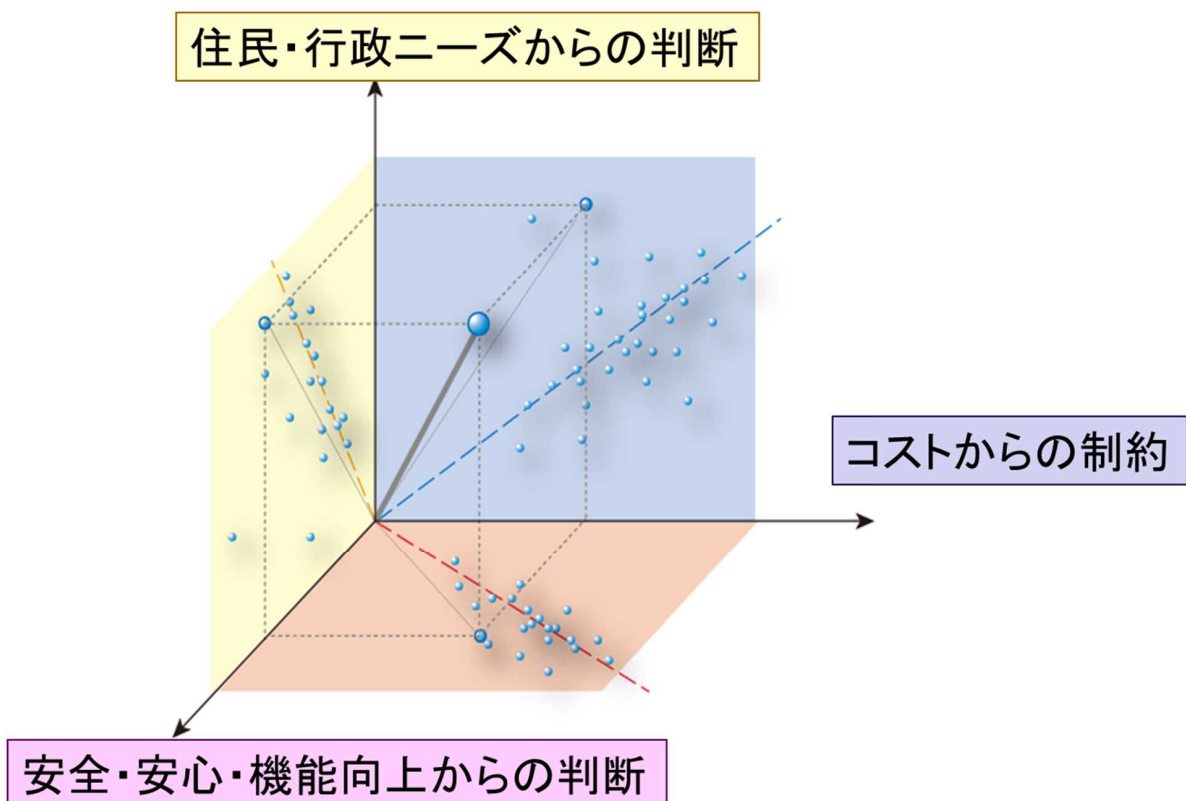
46

方針の設定

(4) 学校施設整備の基本的な方向性



今後の学校施設の方向性(3次元)



学校施設の点検

不具合箇所やコストの徹底した検証を行い、
安全、安心を確保したうえで、
ムリ・ムダの徹底的な排除

学校施設機能等の整理

1. 人口減少や人口構成の変化への対応
2. 公共施設全体の再編や複合化との調整
3. 合併自治体での学区域などの整理
4. 地域にとってのシンボルとしてのあり方
5. 小規模学校のあり方をどう考えるか

49

学校施設整備の基本的な考え方

1. 現状の規模や機能を維持
2. 現状の規模や機能を維持しつつ、他の公共施設との複合化・共用化
3. 現状の規模を縮小(減築)して、機能を維持
4. 統廃合して、他の用途に変更
5. 統廃合して、定期借地、売却などの資金を活用

* 道路、水道等のインフラは現状を維持して減らすことができないので、人口減少や年少人口が減る学校を統廃合すべきとの意見
なぜ、インフラは減らせないのか、除雪道路の選別、さらには道路選別、上下水道の企業会計の徹底等々

未来のため、地域のためには教育施設が大事(地方公共団体でインフラを検討し、学校を考慮することを進行中)

50

② 改修等の基本的な方向性

51

耐用年数とは

1. 建物の物理的・機能的な耐用年数と減価償却の耐用年数の違い
2. 物理的・機能的な耐用年数とは、使用に耐える年数であり、**所有者が予定している年数**
3. 減価償却での耐用年数とは、税務上からの年数であり、財務省令での年数をいっている

なお建物寿命とは、ある建物が**実際に存在した年数**をいう

52

財務省減価償却資産の耐用年数では、

- ・港湾施設の寿命は、50年
- ・道路は、10～15年
- ・橋梁は、60年
- ・RC造の事務所は、50年、学校は、47年

では、物理的なほんとうの耐用年数は、建物は、
建築設備は、インフラは？



状況によっても、持っている性能でも異なる
維持管理の方法や周期、稼働状況での違い、
機器等のほんとうの耐用年数は？

53

鉄筋コンクリートは何年ぐらい持つのか

鉄筋発生の原因

- ①ひび割れなどから水や空気が浸入する
- ②鉄筋が錆びてくる
- ③鉄筋が錆びると体積が膨張
- ④体積が膨張すると周囲のコンクリートへの圧力が増す
- ⑤押し出されてコンクリートが剥落(爆裂)
- ⑥鉄筋が露出する状態になる
- ⑦鉄筋の錆が進行し、強度が低下する



54

鉄筋コンクリートの劣化の原因

1. 施工不良からの原因

(コンクリートが均質になっていない。ジャンカなど)

- (1) コンクリートの強度不足
- (2) かぶり厚の不足

2. 鉄筋の発錆からの原因

(1) コンクリートのアルカリ性が喪失する(中性化)

空気中の二酸化炭素とセメントのカルシウムイオンが反応する
中性化してもコンクリートの強度は低下しないが、中性化すると鉄筋が錆びる危険が増大する

(2) コンクリートの亀裂からの空気・水の進入

55

コンクリートの耐久性確保方法

1. 中性化の進行を防止する

二酸化炭素との接触を避ける→表面塗装や早めのひび割れ補修など

2. 内部の鉄筋を錆びさせない

コンクリート表面に水を近づけない→庇の設置等鉄筋のかぶり厚を確保

→不足部分でのコンクリートの増し打ち等

3. 中性化部分をなくす

コンクリート躯体部の再アルカリ化

56

後、何年間の利活用できるのか

1. 耐震診断でのコア抜き200例の実例では、中性化の進行速度を計算すると、鉄筋へは60年～80年程度
2. 中性化も、状況によって異なり、かぶり厚によっても深さの限界が異なる。また、鉄筋部分に達したとしても直ちに発錆はしない。
3. 中性化の進行は止めることができる。
4. コンクリート強度の方が課題
想定されている100年程度は物理的には大丈夫
物理的課題よりも、機能的な課題への対応が必要

57

長寿命化計画の策定・運用 (維持管理の項目・手法等を含む)

58



長寿命化の課題

- すべての学校(既存建物)を残せない(長寿命化方針)
 - 残すべき建物の選別
- すべての修繕、改修は、建替えで行う
 - ノーメンテナンスは、部位の不具合を増加する
- 古い既存建物から修繕などを実施する
 - ひとつの建物のコストが掛かる
 - 新しい建物が古くなっていく
 - 個々建物の維持費は増大する
 - ゆえに建物全体の保有コストは増大する

59

長寿命化への方向性

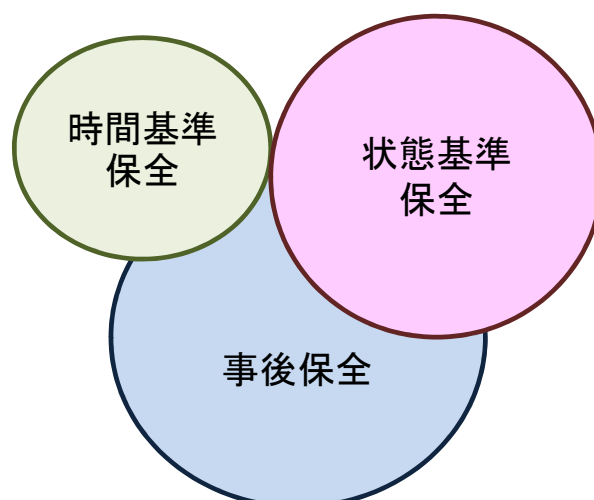
何を具体的に長寿命化していくのか

<ハード面>

予防(計画)保全

- ・時間基準保全
- ・状態基準保全

事後保全



60

計画保全と事後保全区分表(例)

ファシリティ大区分	ファシリティ中区分	ファシリティ小区分	分類名称			更新年数	
			時間基準保全	状態基準保全	事後保全	提案する目標耐用年数	参考：期待耐用年数(LCC本)
電気設備	受変電設備	スコット変圧器	○			30	30
電気設備	受変電設備	引込開閉器		○		25	25
電気設備	受変電設備	高圧ケーブル			○	40	30
電気設備	受変電設備	三相変圧器	○			30	30
電気設備	受変電設備	進相コンデンサ	○			25	25
電気設備	受変電設備	単相変圧器	○			30	30
電気設備	受変電設備	直列リアクトル	○			25	25
電気設備	電力設備	電灯分電盤			○	40	25
電気設備	電力設備	動力制御盤			○	40	25

61

既存建物の長寿命化の方向性

- ・ コストの徹底した検証を行い、ムリ・ムダを排除
- ・ 従来は、建物の状態が悪くなってから改修、更新、悪くなった後での対応は、手の付けられない状態、その後の補修などの対応が手遅れになることが多い。
でも、事後保全から予防保全への変更は、莫大な金額の恐れもある
- ・ 予防保全も、時間基準保全と状態基準保全の考え方や、事後保全の組み合わせが大事。
適切な時期に最小のコストで行えるかが重要

62

既存の学校のトリアージ

1. 建物整備における優先度の考え方

すべての既存建物を整備し、運営するだけの財政的な基盤がないときは、「既存の学校のトリアージ」が考えられる

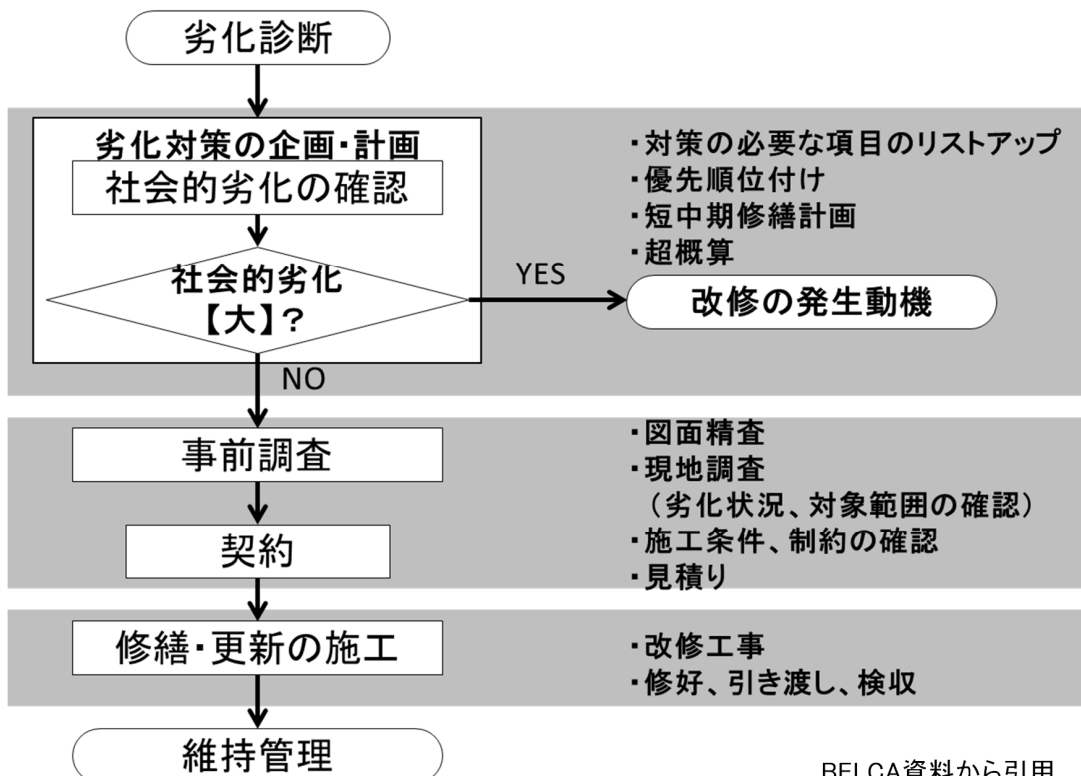
2. トリアージ(triage フランス語が語源)とは、選別の意味

災害や事故で、多くの負傷者が同時に発生した場合、負傷者への治療の優先度を判断することであり、限られた医師、看護師の医療体制や医療設備に応じて、負傷者の重症度、緊急度に応じて医療行為の判断を行うこと

3. この考えは、既存の学校にも当てはまると考える

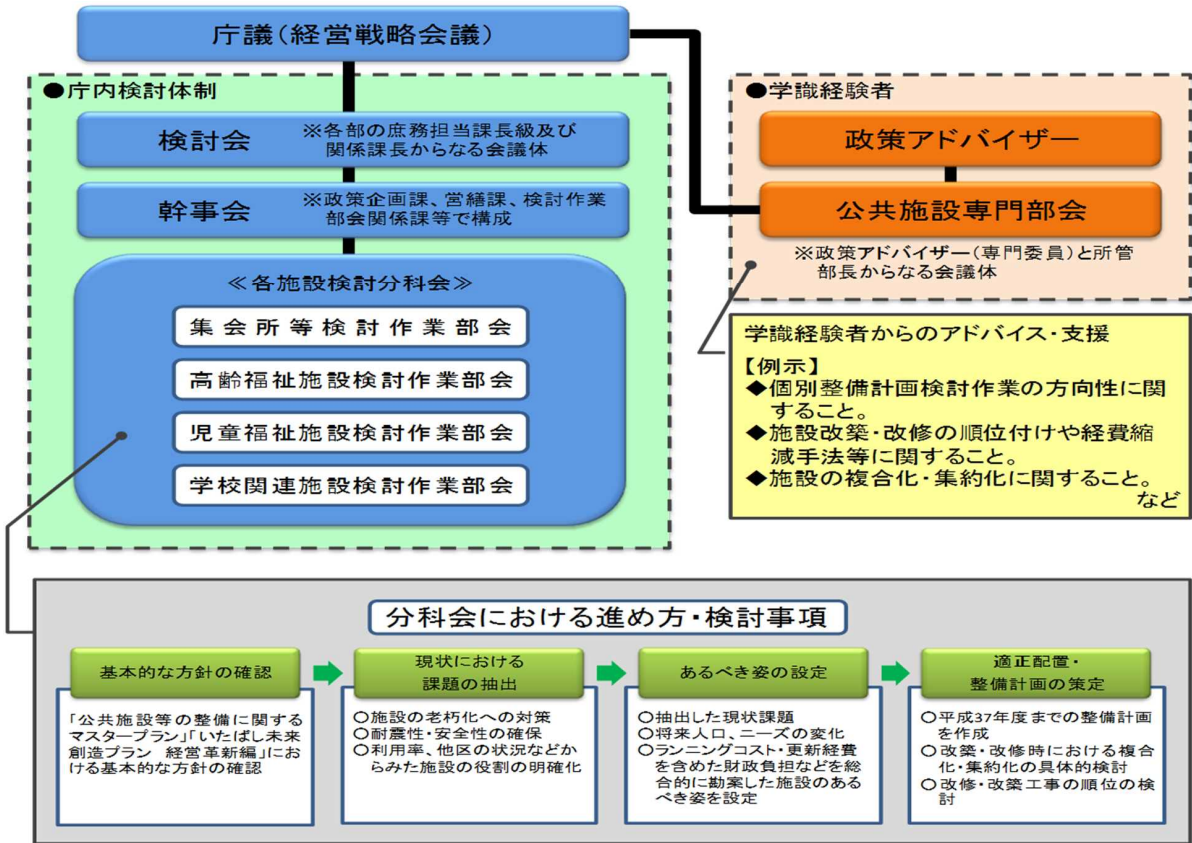
重症度の高い、つまり建築後年数が長い建物を優先的に行っていると費用もかさむことや、建築年数の古いものから順番に行っていく改修では、築年数が若い建物も年を重ね、結局、費用が高くなり、いつまで経っても、改修、更新の追いかけっこになってしまうからである。損傷度の低い(一定の時期を経過した)建物から改修、修繕をすること。結局、トータル費用が安価になるなどのメリット、真に必要な施設への投資が可能

(参考)社会的劣化からの長寿命化



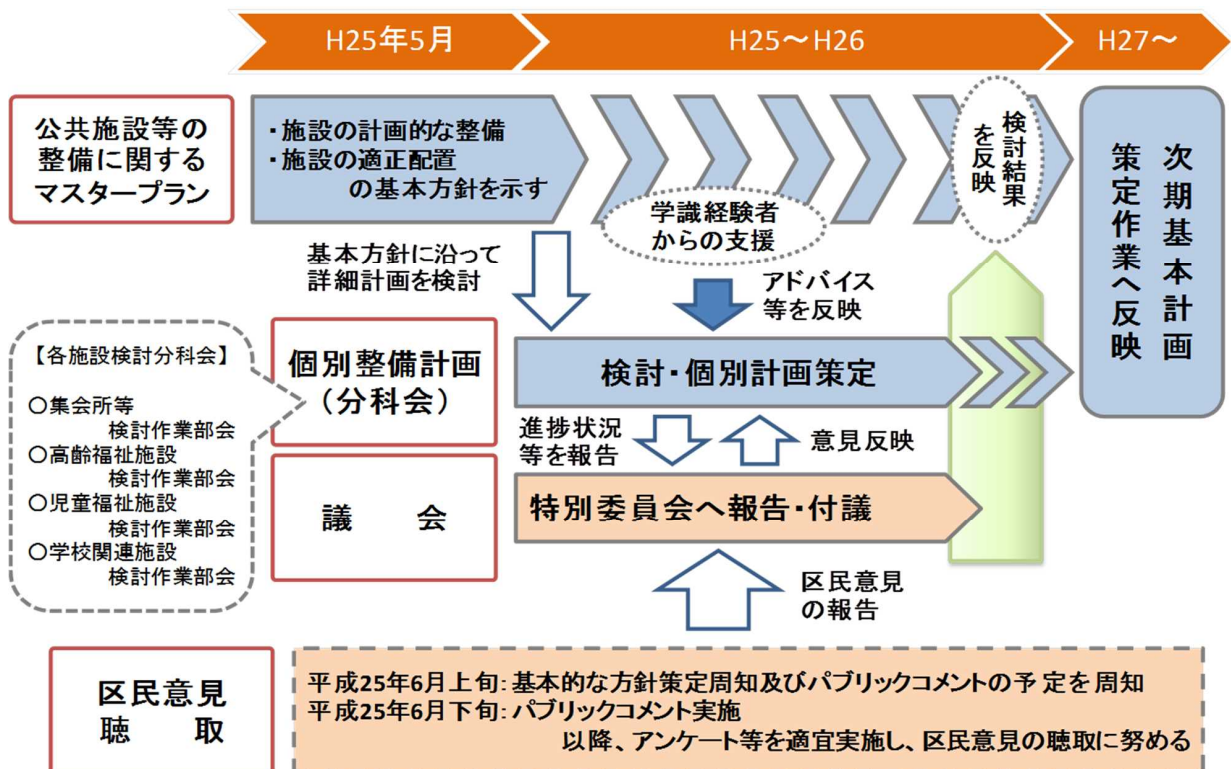
BELCA資料から引用

組織検討例(東京都板橋区)



板橋区提供資料 65

議会・住民との情報共有(東京都板橋区の例)



板橋区提供資料 66

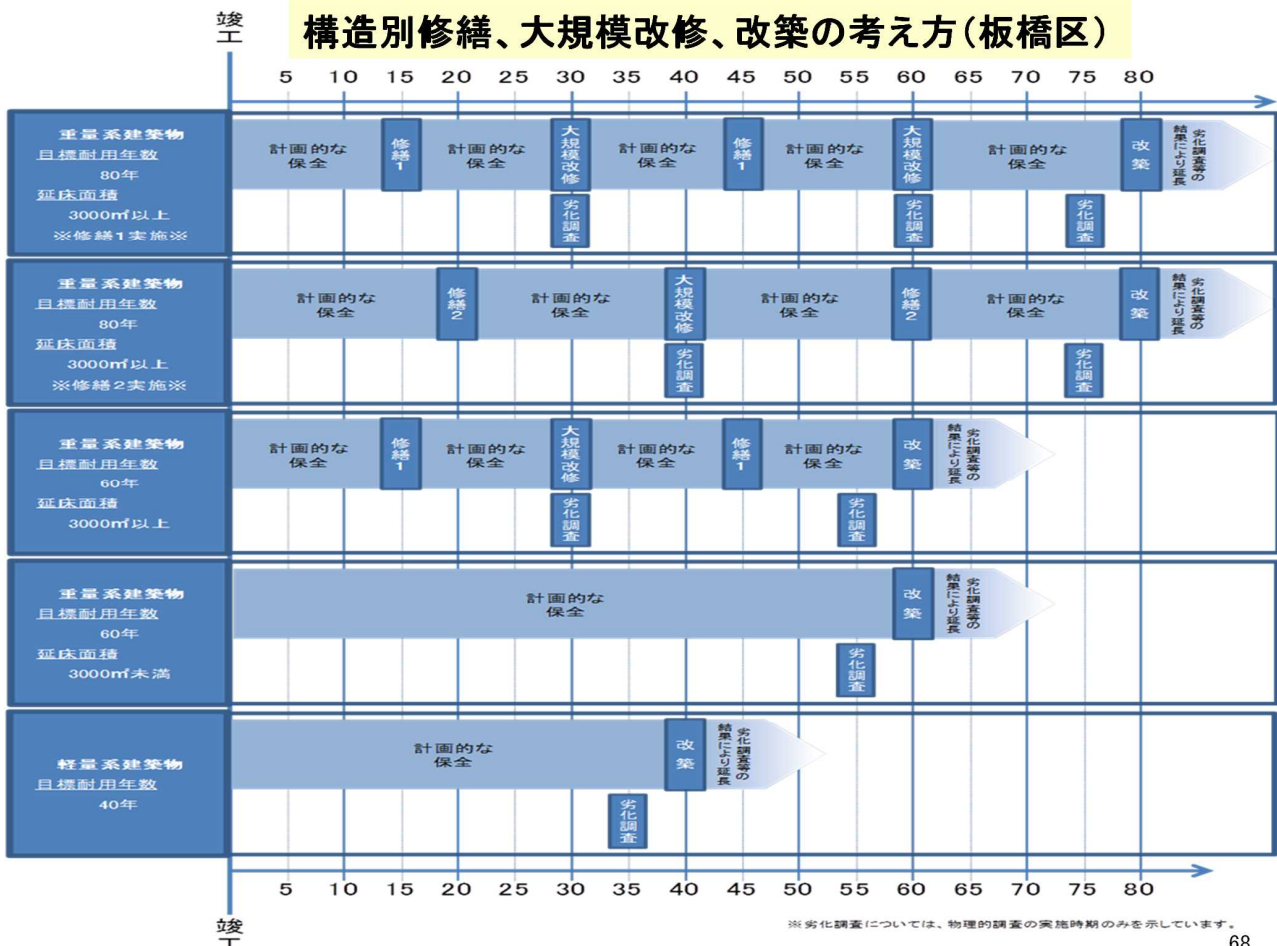
個別施設の作業工程例(板橋区)

年度	月	工程	内容
平成25年度	1月～3月	施設の整備方針のまとめ 適正規模・適正配置の進め方までに、検討作業部会毎に異なっている進捗度を調整	<ul style="list-style-type: none"> 施設の整備方針のまとめ 施設種別の今後の方向性 適正規模・適正配置、改築・改修等の整備に関する基本的な考え方
	4月～6月	適正規模・適正配置の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模・適正配置の進め方 標準的な施設規模 具体的な配置目標 適正配置手法 など
平成26年度	7月～9月	集約・複合化の調整 改築・改修工事の優先順位の調整	<ul style="list-style-type: none"> 集約・複合化の調整 施設種別を横断的に検討 適正規模・適正配置の進め方に基づき、施設種別毎に集約・複合化候補を抽出 統合型GISを活用しながら、施設種別を横断した候補施設のマッチングを行う 改築・改修工事の優先順位の調整 集約・複合化の候補施設のマッチング結果を踏まえつつ改築・改修工事の優先順位を調整 次期基本計画の想定期間（平成28年度から平成37年度までの10年間）における改築・改修の計画（公共施設の再配置計画を含む）素案をまとめる
	10月～12月	素案のまとめ	
	1月～3月	計画策定	
平成27年度			平成26年度中に策定した内容を区議会に報告したうえで、平成28年度を始期とする区の次期基本計画に反映させ、その実施計画に財政状況を勘案しつつ位置付けることにより実効性を担保していく。

板橋区提供資料

67

構造別修繕、大規模改修、改築の考え方(板橋区)



板橋区提供資料

68

具体的な施設名の検討を。〈例えば集会施設・学校等〉

第1期前半 (H29~H34)	第1期後半 (H35~H38)	第2期 (H39~H48)	第3期 (H49~H58)
5 施設	10 施設	20 施設	12 施設



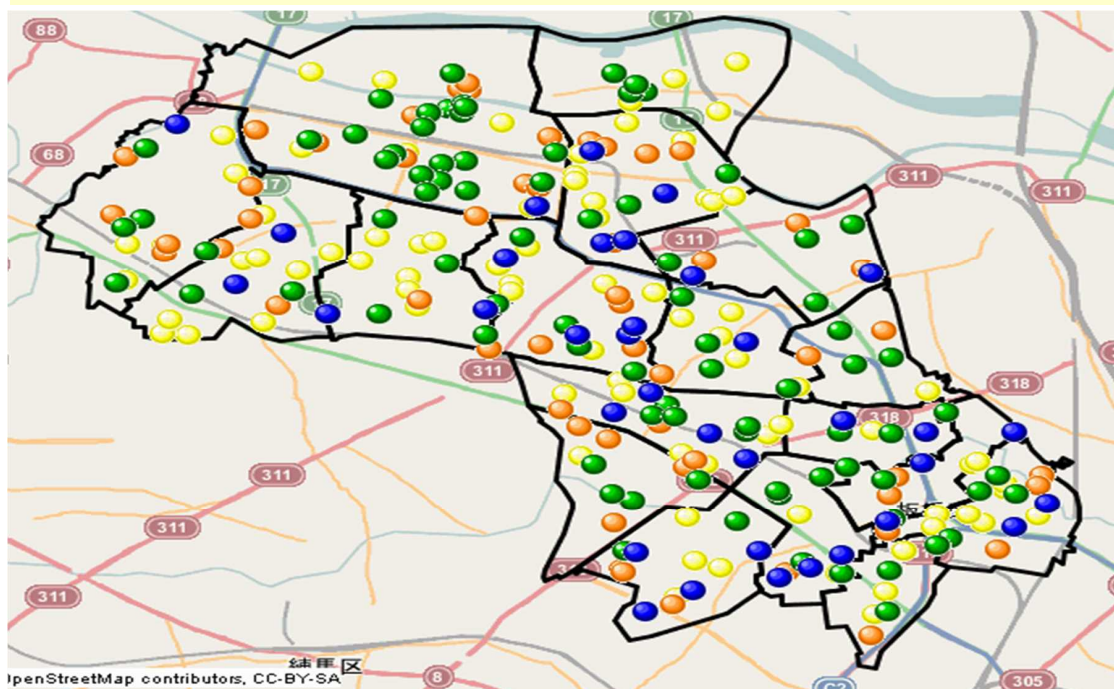
方向性	第1期 10年間の目標事業量	第1期の対象施設
更新	1 施設	○○集会施設
廃止	10 施設	□□・××集会施設等
検討	4 施設	●●・△△集会施設等
計	15 施設	15 施設の名称

* 第1期における対象施設は具体的な施設が対象になる
 例えば、耐用年数から判断して、更新時期や大規模改修をどうするのか

69

施設配置からの検討事例

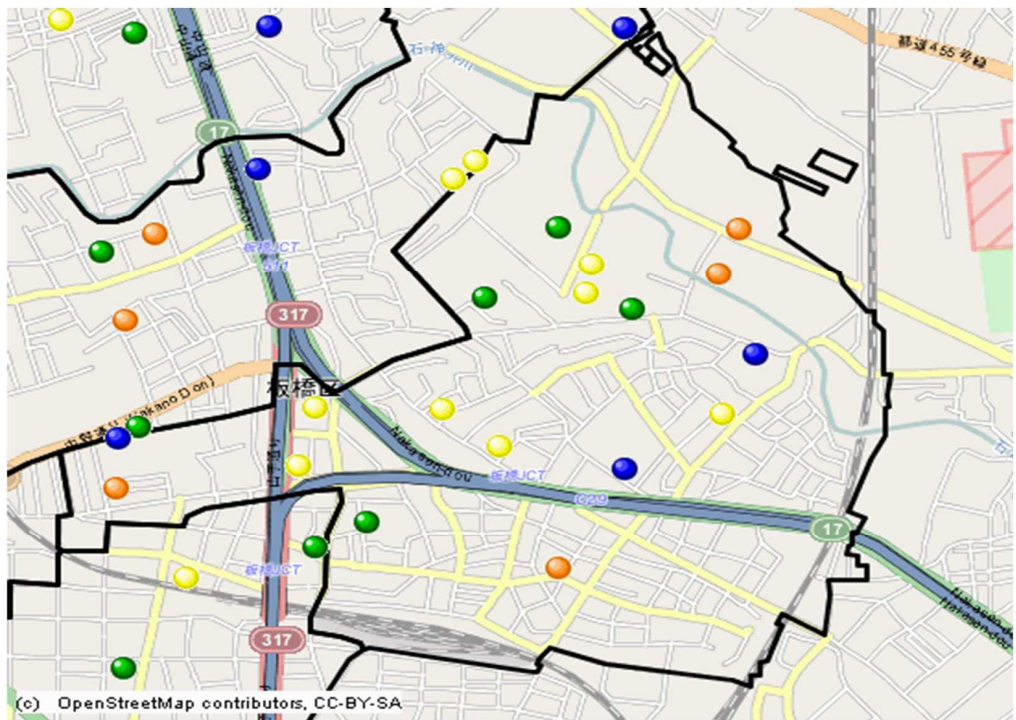
(板橋区の第1期10年間の計画期間中に築30年以上を迎える施設の分布からのアプローチ)



● 築30~39年
 ● 築40~49年
 ● 築50~59年
 ● 築60年
 板橋区提供資料

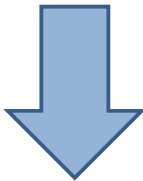
70

地域ごとの分布状況(板橋区の例)



● 築30～39年 ● 築40～49年 ● 築50～59年 ● 築60年
板橋区提供資料

学校の更新等の正解はない
地方公共団体ごとに答えは異なる



将来を考え、住民を考え、街を考える
学校などの公共施設の推進を